

平成 19 年度

フロンティアプロジェクト

**子どもが川との絆を深める河川環境教育の提案**

Proposal of river environmental education program to  
strengthen the linkage between children and river

1105707 坪田 恵美

指導教員 村上 雅博

2008 年 3 月 21 日

高知工科大学大学院 フロンティア工学コース

## 要 旨

子どもの健全な育成には、自然との触れ合いを重視した体験活動が不可欠である。その中でも川は、古来より生活と密接に関わりがあり、子どもにとっても虫とりや水遊びなどの遊びの場として絆の深い身近な自然であった。しかし、近年の子どもは自然（川）とのふれ合いが減少してきている。自然（川）での体験が減少すると、自然や人に対する感受性やコミュニケーション能力、危機管理意識の低下など様々な弊害に結びつき、自然体験を増やすための取り組みが望まれている。現在の子どものライフサイクルを考慮すると、小学校における環境教育を充実させることで自然体験を増やすことが考えられるが、長期的・継続的に実施している事例が少なく、教育効果の評価も適切に行われていないのが現状である。

本論の目的は、香南市立野市小学校をケーススタディとして、子どもと川とのかかわりが希薄になっている原因を明らかにし、子どもが川との絆を深める河川環境教育カリキュラムを提案することである。

はじめに、子どもと川との関わりを明らかにするために、“子どもが川と関係を持たない”を主題とした問題分析を行い、子どもが川との関わりについての問題点の構造化を行った。その問題分析をもとに香南市立野市小学校といの町立伊野南小学校の全校児童を対象に川との関わりに関するアンケート調査を実施し、子どもは、夏季に川へ行くことがほとんどなく、川を汚い場所であると認識していることが示された。次に、小学校で環境教育を実施するにあたっての問題を抽出するためにヒアリング調査や教職員を対象とした意識調査を行い、環境教育の計画、準備、実施、評価する段階において企画・立案の困難さや教科時間数の不足など環境教育を実施していく上での問題を抽出した。川との関わりに関する問題分析や環境教育に関する分析結果をもとに、子どもが川との絆を深める解決策として、子どもが川と触れ合う機会を増やすとともに川に対する知識や現在の問題点を学ぶことのできる河川環境教育カリキュラムを提案した。河川環境教育カリキュラムは、教育関連法規や学習指導要領も参考にし、小学校全体(小学1～6年生まで)の目標を“身近な川で発生している様々な問題を知り、解決策を考え、実行できる子どもの育成”と設定し、その目標に到達するために2カ

年ごとの目標，各学年の目標，各学年の学習内容，運用方法を策定した．なお，河川環境教育カリキュラムの実施にあたっては，先生対子どもの関係だけでなく，小学校や地域の河川環境保全団体，行政，大学相互をつなげる関係者ネットワークを構築し，地域全体で子どもの育成を図る体制が必要である．

**キーワード** 子ども，環境教育，川，自然体験，PCM手法，関係者ネットワーク

## **Abstract**

### **Proposal of river environmental education program to strengthen the linkage between children and river**

TSUBOTA, Emi

The purpose of study is to propose the environmental education program to strengthen the linkage between children and river. This study is a case study to Noichi elementary school to identify the cause of children why they are not concerned with river in their school life. The questionnaires survey was carried out in the two elementary schools at Inominami and Noichi in Kochi prefecture. It is found that 70% of the school children did not visit the rivers in summer season, which are located even in a working distance, owing to the busy time scheduling and the general informal feeling of “not clean” or “duty”. River environmental education program is proposed in the study to increase the opportunity of keeping in touch with rivers on top of know ledge capacity building in the integrated education program at primary school.

Through the program, children as well as teachers will be able to know the status of nature and the problems to be solved. It is suggested that the local network owing Stakeholder in the watershed including, schools, local government, environmental NGO/NPO, and the people concerned in environmental educator.

***Key words*** children, environmental education, river, experience in nature, project cycle management, stakeholder network